北薩空港道路が開通

地域活性化に期待

九州縦貫自動車道と南九州西回り自動車道を連結し、高速ネットワークを形成する目的で整備が進められている地域高規格道路の北薩横断道路（起点・姶良郡溝辺町～終点・出水郡野田町、L約70㎞）の一部である北薩空港道路（野坂IC～永野IC、L約6㎞）が9日開通し、姶良郡横川町の野坂ICで2市10町の行政機関や工事関係者、地権者ら約220人が参加して開通を祝った。

本線上での開通式では、南部隆秋国土交通省国道課長や脇田稔県副知事、県出国会議員らが紅白のテープにはさみを入れ、続いて県議会議員や地元の永野小学校の児童らがくす玉を割って開通を祝福。引き続いて、出席者らを乗せた車はパトカーに先導されて薩摩町の永野ICまで通り初めをした。

会場を薩摩町農村改善センターに移して行われた式典では、須賀龍郎県知事（代読）が「地域の産業、経済、文化の振興や地域の活性化に寄与することを期待している。また、残りの区間については早期整備を図っていきたい」と祝辞を述べ、県出国会議員らも祝辞を寄せた。

今回の開通は、約70㌔の北薩横断道路の区間内でも初めての供用であるが、県内で計画されている七つの地域高規格道路を含めても初めての供用となる。

北薩空港道路は、自動車専用道路として平成7年度に工事着手し、総事業費約124億円をかけて整備。区間内には橋梁9橋とトンネル1本があり、当面は幅員10・5㍍の暫定2車線での供用となる。今回の開通で、鹿児島空港から薩摩町まで約5分の時間短縮が図られる。通行料は無料。

くす玉を割って開通を祝う関係者ら
＝横川町の野坂ＩＣ付近で

安全表彰も行われた安全大会
＝川内市のホテル太陽パレスで

春園組安全衛生協力会 安全大会

危険予知の徹底を

春園組安全衛生協力会（会長・長谷治㈱春園組社長）は9日、川内市のホテル太陽パレスに鹿児島・川内両地区の130人が参加して14年度安全大会を開き、常識では考えられない所まで掘り下げて危険予知をした安全作業を推進し、危険をゼロにすることで災害を撲滅することを決意した。

われた後、長谷会長が「昨年度は、各位の努力・協力により無事故を達成できたが、残念なことに、今年は、いずれも解体現場で3件の労働災害が発生している。常識では考えられない所まで危険予知を行う必要性を感じるし、安全対策に妥協はなく、対策費用を惜しむなと言われる。高温の日が続き、注意力が散漫になりがちな時期だが、無事故無災害が達成できるよう、安全作業を推進して下さい」と挨拶。

引き続き、安全推進室長の川田健二常務が「始業時に実施するミーティングでは、作業者全員に浸透したKY活動を行い、指示したら必ず実行されているか確認を行い、徹底した危険予知を行って「危険をゼロにする事で災害をゼロに」を今年度のスローガンにし、元・下請の区別なく協力して安全作業に努めて下さい」と安全の重要性を強調した。

鹿児島市社会保健センター（玉利千太郎（㈲西久保工務店）理事長）は、「建設業界はいまだ厳しい状況にあり、生き残りをかけて合理化を真剣に考える時期にきている。その中で、技術力の向上や安全管理の徹底が重要となり、質の高い成果品を提供するために、技能の向上を図り研究する努力が必要となっている。今日の講習での成果を、今後に役立ててほしい」と挨拶。

続いて、鹿児島市水道局の中村秀男下水道部長が「下水道事業の動向」、同田村耕一下水道部下水道管路課長が「鹿児島市における公共下水道事業の概要」、同西堂和美下水道建設課管理建設係技師が「土木工事・戒仮設工事の安全対策」について講演、参加者は熱心に聴講していた。

この中で、田村課長が鹿児島市の公共下水道事業の概要で、時代のニーズと共に多様化し、今後国民から期待される下水道の役割などについて述べた。また、県厚生農協連健康管理センター副所長の草野健医学博士を講師に、「成人の慢性腎臓病について」の健康講座を開催した。

鹿児島下水道事業協組 施工技術講習会

技術力等の向上を

鹿児島下水道事業協同組合（池田安則理事長）は9日、鹿児島市の県市町村自治会館で下水道事業工事安全管理、施工技術講習会を開き、現場代理人、会員ら約230人が参加し、下水道事業の動向や労働災害防止などについて学んだ。

講習会では冒頭、池田理事長が「建設業界はいまだ厳しい状況にあり、生き残りをかけて合理化を真剣に考える時期にきている。その中で、技術力の向上や安全管理の徹底が重要となり、質の高い成果品を提供するために、技能の向上を図り研究する努力が必要となっている。今日の講習での成果を、今後に役立ててほしい」と挨拶。

続いて、鹿児島市水道局の中村秀男下水道部長が「下水道事業の動向」、同田村耕一下水道部下水道管路課長が「鹿児島市における公共下水道事業の概要」、同西堂和美下水道建設課管理建設係技師が「土木工事・戒仮設工事の安全対策」について講演、参加者は熱心に聴講していた。

この中で、田村課長が鹿児島市の公共下水道事業の概要で、時代のニーズと共に多様化し、今後国民から期待される下水道の役割などについて述べた。また、県厚生農協連健康管理センター副所長の草野健医学博士を講師に、「成人の慢性腎臓病について」の健康講座を開催した。

下水道の動向や安全管理などを学ぶ会員ら
＝鹿児島市の県市町村自治会館で

上木原建設 住宅リフォーム参入

枕崎市にライファ モデルルーム

㈱上木原建設（上木原満男社長、本社・枕崎市）はこのほど、㈱INAXが全国展開する住宅リフォーム事業LIFA（ライファ）の、FC（フランチャイズ）として、住宅リフォーム事業に本格的に参入、枕崎市栄本町にモデルルーム営業を開始した。

同社が、FCとして住宅リフォーム事業に本格参入した経緯は、今まで公共事業依存率が高かった部分を、国のさまざまな政策や13年末に施行された県の財政改革プログラムなどで、公共事業に対して今後大きな期待が得られないと考え、それに変わる新たな事業を模索した結果、未成熟ではあるがリフォーム事業は将来性・安定性を持ったマーケットとして、今後更に成長する可能性があると判断したことから、新ビジネスとしてスタートした。本県では同社が5社目になる。

家の1軒を、新築の半分の値段（外装・内装・水廻りが標準）で住みながらまるごとリフォームする「ワンダフルルーパック」をはじめ、その他関連商品の設備施工などを行う。

アドバイザーの青木和夫氏は「住宅リフォーム事業を通じて、限りある資源の有効活用する方法を常に考え、提案・実行することで、地元をはじめお客様に満足していただける家造りを目指していきたい」と抱負を語った。

問い合わせは、ライファ枕崎（☎0993・72・2131）青木氏まで。

営業を開始したモデルルーム

出水耕地が水辺活用協議会

環境整備に子供の知恵を

県出水耕地事務所（南新五所長）は、「農村自然環境整備事業 高尾野地区」の推進に子ども達の意見を反映させようと9日、出水郡高尾野町で地元小・中学生を対象に「自然環境を大切にする子供協議会」を開催、ため池の現地研修や意見交換を行った。

水辺の広場、親水公園といった各地の公共施設は、大人の発想で造られていることなどから、子どもにはあまり利用されていないのが実情。県有施設でも例外ではない。

そこで、出水耕地では8年度から16年度までの計画で実施している高尾野地区の農村自然環境整備に地元児童・生徒の意見を少しでも取り入れて後半の工事を進めたいと、今回の催しを企画した。

協議会には、高尾野小、中学校の児童・生徒23人が参加。

県、高尾野町教委の関係者、松ケ野正行氏（㈲せいこう技研社長）らの案内で町内にある御岳溜池と小川を視察。現地では、水路の止水壁と石積工を含む流入路、排水路の一部が概成。現地研修後、子ども達に、溜池等を生かした整備方法について、アイデアを求めた。

南所長は「自然との共生、ふれあいの場づくりとして、様々な提案を最大限に生かしていきたい」と語った。

御岳溜池で現地研修する児童・生徒ら
＝高尾野町で